

年中組「めざせ！園庭の色マスター！」

～園庭ならではの「色」にスポットをあてた年中組幼児たちの探究活動～

年中組

すいせい組 26名 (男児 16名・女児 10名) 教諭 G29年目・教諭 H 2年目

きんせい組 26名 (男児 14名・女児 12名) 教諭 I10年目・教諭 J 2年目

【すくわくプログラム開始以前の 年中組かくれんぼの実態】

4月15日「かくれんぼ（園庭・自由遊び）」

進級3日目、お弁当有の通常保育が始まり、新しい先生・友達・保育室・生活リズムに戸惑いなかなか遊び出せずにいる幼児を誘って、年少組でも経験のあるかくれんぼをおこないました。すると、他の遊びをしていた幼児も次々に参加し、最後は学級全体になっていましたが、みんなで楽しみホッとするひと時になりました。

翌日からも自由遊び内で繰り返し楽しみ、5月頃より教師が仲間に入らなくても自分たちで誘い合っておこなうようになりました。

11月4日「かくれんぼ（園庭・自由遊び）」

園庭の夏の暑さが落ち着き、隠れ場所でじっとしていやすいためか、かくれんぼが再び盛んになってきました。1学期よりも、かくれるのがうまくなっておにが見つかるのにかなり苦戦していました。そこに、早退直前の幼児が含まれており、保護者が迎えにきたため教師も必至で探していましたが、なかなか見つけれなかったほどでした。

年中組では、実態を踏まえ、「かくれんぼ遊びにおける幼児の探究活動やその展開」の取り組みで、年長組とのクイズの出し合いをするにあたり、次のように探究活動の計画をしました。

【年中組の活動展開予定】

- 1) 自由遊びや学級活動でのかくれんぼの経験を生かし「見つかりにくい場所」を探す
- 2) かくれ場所の景色・特徴「色・形・感触・体感」などに**気づく**
- 3) 気づいたことをデジカメで撮影し画像を使って発表し**共有する**
- 4) 年長組と画像を使いながらクイズを出し合う
 - ①年長組に対して知っていることを発表する
 - ②年長組でも知らないと思われることに**興味をもち知ろうとする**

まず、学年では例年通り自由遊び内で繰り返しかくれんぼを楽しむ中で、特に「2）」の気づきを促す働きかけを意識的に強めてきました。そして、「4）①、②」への展開を検討する中で、年長組が「園内の不思議、氷の不思議、形の不思議」について探究を深めていることを知り、年中組として「年長組でも知らないこと」を見つけようと違う分野を探り、「**園庭の色**」に目を向けることを働きかけていくことにしました。

1月30日「色おに（園庭・学年活動）」

初回のため、教師が指定した6色（青・白・赤・オレンジ・黄・緑）が園庭のどこにある

かを歩いて探し、把握をしてから始めました。意外にも、いろいろな遊具で色が見つかることができていたため、予定外のピンクを指示したところ、目につく場にあるのは椅子だけで幼児たちに緊張感が走りましたが、園長先生の働きかけで、「元は赤かった砂場道具が色あせてピンクに見える」ことに気づき、ハラハラも含めて楽しむことができました。

また、この経験を生かし、自由遊びの時間にも継続して色探しをしていくこととしました。

土橋先生より、色おにの「〇〇色」の定義の曖昧さについての指摘、改善策などの助言をいただきました。

それを踏まえ、学年では同じ「〇〇色」の中にも濃淡、明度、彩度の違いがあることへの気づきを促していくこととしました。

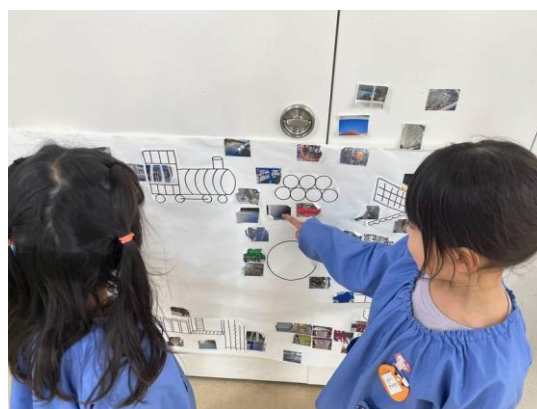
2月4日「園庭で見つけた色を撮影（園庭・学年グループ活動）」

「〇〇色」の濃淡、明度、彩度の違いに気づく活動への導入として、デジカメ画像を使用した園庭図作成の下準備をおこないました。

本時は生活グループごとに見つける色を話し合い、その色を園庭で見つけてデジカメで撮影するところまでとしました。その画像はプリントアウトし、翌日、学年共有フロア壁面の「園庭マップ」に貼って共有し合いました。

土橋先生より、幼児が撮影しにくい高さに「〇〇色」を発見した時などに、見つけにくいところへの発見を認めながら柔軟に撮影の補助に入っている姿への評価、今後プリントアウトした画像を「園庭マップ」に貼ろうとしている次の展開への助言をいただきました。

それを受け、「色の系統（〇〇系の色）」の気づきへ方向づけられるよう、たくさんの園庭の色に気づき、撮影し「園庭マップ」の充実を進めていくこととしました。

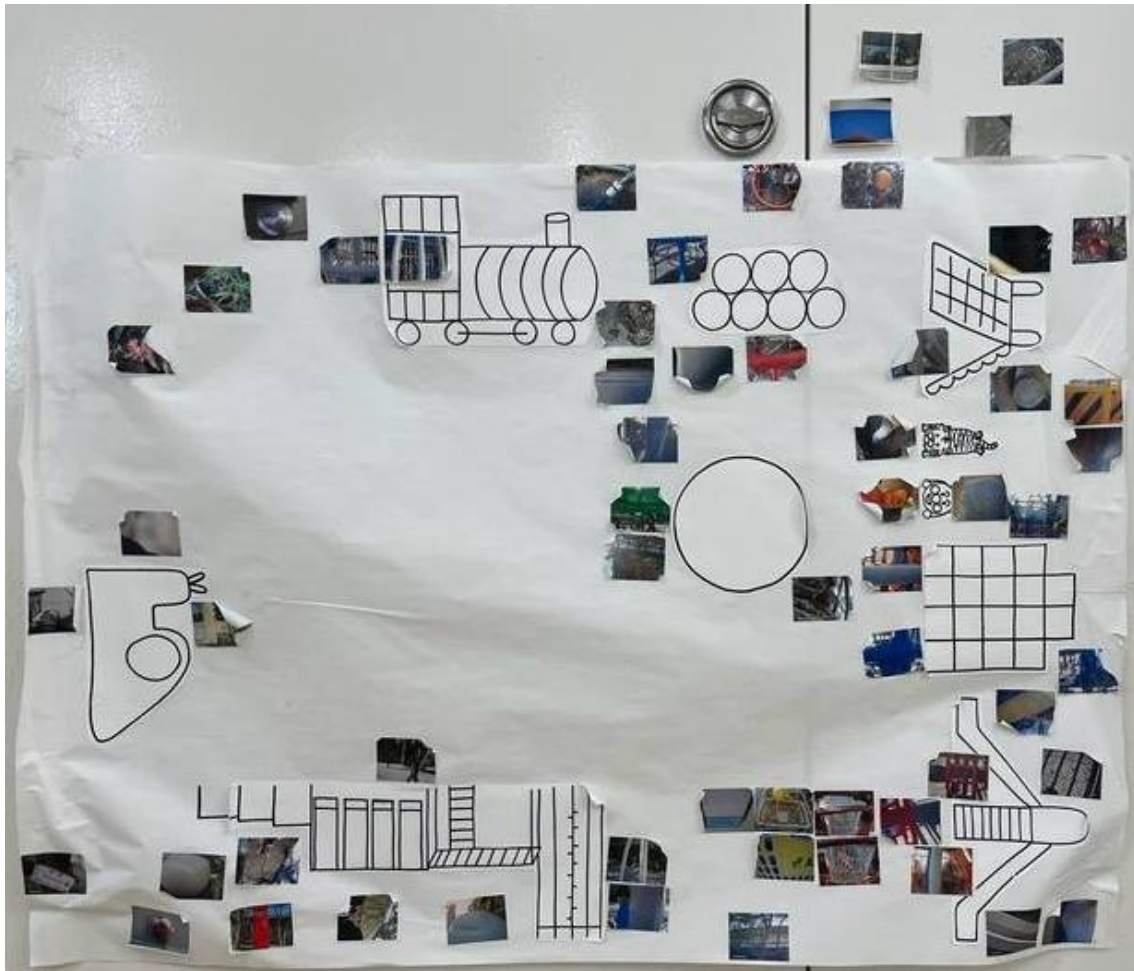


2月5日～14日「園庭マップ作り/園庭の色探し（園庭/共有フロア・自由遊び）」

園庭の自由遊び時に「色探し」をし、見つけた色をデジカメで撮影してプリントアウトした画像を年中組共有フロアの「園庭マップ」に貼る作業を続けてきていましたが、2月14日は1人1色探し1枚撮影することになりました。

それぞれに、今まで見つけられていない色を見つけようとしていたり、よく観察したりしていました。中には、くるみの木は「下の方は緑（苔）で、上の方が茶色」、遊具のペイントがはがれた部分を「灰色」、多目的室のガラス窓を「透明！」と生き生きと表現する幼児もいました。

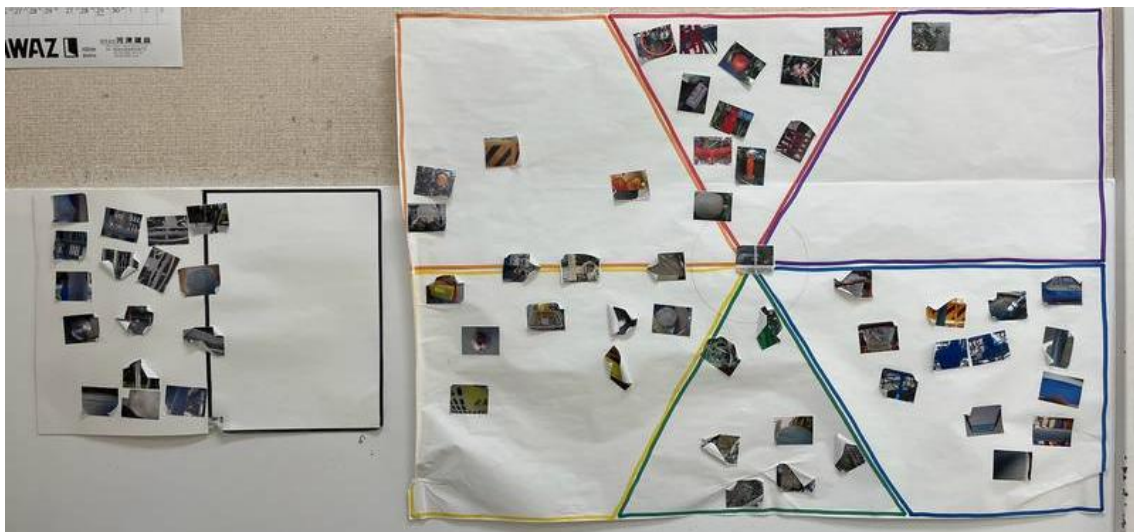
今後はこれまで撮りためて「園庭マップ」に貼ってきた様々な色を分類して、「色分け表」作成に向かっていくこととしました。



2月17日「色分け表作り（共有フロア・学年グループ活動）」

「園庭マップ」に貼ったものと同じ画像をプリントアウトし、「何色」に分類されるかを分担するグループで考え、話し合い、年中組共有フロア壁面の「色分け表」に貼りました。

中央ほど濃く（黒く）、離れるほど薄く（白く）なる想定でしたが、その共有は難しく、予想以上に白・黒・灰が多かったことから、急遽、白黒を特別に別表としました。



土橋先生が、多目的室の窓（透明）の画像を持って悩んでいる幼児に働きかけをしてくださり、「透明は何色にもなるから真ん中にはればいい！」と納得し、表の中央に貼る姿がありました。

また、「同じ〇〇色でもこんなに違う」、という気づきを、「本当は△△色っていうんだ！」という気づきや、三原色からいろいろな色になっていくことへの気づきにもつながられる可能性があることを享受していただきました。それは、次年度に色水遊びを通して、探究を深めていかれる可能性があることも助言していただいたので、ぜひ参考にしていきたいと考えています。

2月27日より「色おに ～園庭の色マスター～（園庭・学年活動）」

自分たちで作った「園庭マップ」「色分け表」をよく見てから園庭に行き、色の配置と見つかりにくい難しい色を心にとめるよう働きかけてからおこないました。

すると、おにの幼児は「薄ピンク」「薄エメラルド」「濃いグレー」「紫」など、よく考えて難しい色を指定していました。また、逃げる側の幼児も園庭のどこに何色があるのかを熟知している様子で、初回では考えられなかったほどパッと色めがけて散っていく様子があり、振り返り時に、「園庭の色マスター」になったことを喜び合いました。

また、最難関の紫ですが、本時、新たに2ヶ所で見つかったので、今後も新しい色や難しい場所を探して、「園庭マップ」を更に充実させていきたいと思います。

終わりに、学年のすくわくプログラムの取り組み中、4回にわたり白百合女子大学准教授 土橋久美子先生に参観、評価、助言をいただきながら実施してきました。教師が思い描いていることと幼児の姿にずれが生じ、方向性を見失いそうになった時もありましたが、自分たちでは思いもよらない助言をいただき、目の前の霧が晴れたようでした。幼児たちに負けず、教師たちもわくわくしながら探究を重ねた日々となりました。

そして、この経験を、次年度、年長組になる幼児たちの「共通の経験」として、更なる探究活動へと生かしていきたいと思います。